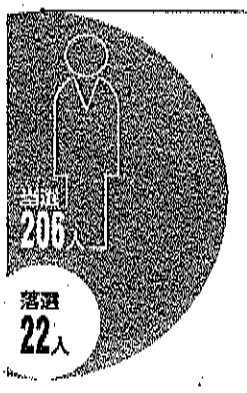
5/8朝日

旧統一教会と接点9割再選

今春の統一選41道府県議



教団との接点を認めた議員の当落

朝日新聞のアンケートに「世界平和統一家庭連合」（旧統一教会）との接点を認めた都道府県議について、今春の統一地方選での当選、落選を調べたところ、立候補した228人のうち9割にあたる206人が当選していた。落選は1割にあたる22人だった。

得票数では、半数超が前回より減らしていた。

アンケートは昨年8～9月に実施。都道府県議のほか関会議員、知事ら計33333人を対象に教団との接点の有無やその内容などを尋ねた。都道府県議は90％にあたる2314人が回答し、うち2922人が接点を持っていたと明らかにした。教団関連の会合やイベントへの出席、選挙活動の支援などだった。

この2922人のうち、今春に任期満了を迎えた議員が251人いた。統一地方選の前半戦の41道府県議選では、このうち23人が年齢などを理由に立候補せず、出馬は228人。このうち206人（90・4％）が再選し、22人（9・6％）が落選した。再選した206人のうち、2割にあたる47人が無投票だった。

アンケートで教団との接点が浮上した都道府県議は、8割超が自民だった。自民の道府県議でみると、今春の統一地方選に立候補した現職計211人のうち落選したのは98人で、全体の8・8％だった。

接点を認めた議員たちは、教団との関わりが地元メディアなどで報じられたケースが多い。

得票数でみると、接点を認めて立候補した228人のうち、前回選挙より減ったのが118人、増やしたのが42人だった。補欠選挙での当選や、前回か今回、もしくは両方が無投票で比較できない議員が68人いた。

減少の要因は教団との関わり以外にも様々な要素が考えられるが、前回から数千～1万票減った人もいた。立候補した議員らは、教団との関わりが自身の得票に影響した可能性を指摘している。

「妨害的行為も」「500票減った」

今回の統一地方選は、旧統一教会の問題がクローズアップされてから初めての大型選挙となった。

新潟県議選の上越市選挙区（定数5）から2期目をめざした自民党の桜庭節子氏(65)は、9536票で次点となり、落選した。4位で初当選した前回県議選から2459票減らした。

過去に教団関係者から選挙活動で支援を受けたり、関連イベントに参加したりしていた。こうした接点は、地元紙や朝日新聞などで報じられた。

桜庭氏は選挙後の取材に、「どれだけかはわからないが、（選挙結果に）多大な影響があっただろう」と語った。2月ごろから、選挙区内の自身のポスターに「統一教会公認候補」と黒い字で書かれたステッカーが貼られたという。ステッカーは50～60枚あった。

落選の結果に「私の、県議としての活動の深さが足りなかったと捉えるしかない」とも述べた。次期県議選は4年後になる。「立候補するかは後援会と相談して決める」

教団と接点を認め、当選した議員も多くいた。

栃木県議選で全国最多となる14回目の当選を果たした自民現職の板橋一好氏(82)は、小山市・野木町選挙区で当選5人の中で最下位だった。次点との差は311票だった。選挙後の取材に「多少票が減った部分はあると思う。500票くらい」と話した。

昨年9月、教団友好団体「世界平和連合」の県連会会代表を務めていたことが明らかになり、代表を辞任した。昨年12月の県議会で、若年層の投票率向上策について「投票率を上げなくていい」などと発言したことも問題視された。

選挙前、支援を受けていた仏教系の団体から、教団関連の報道を受けて今回は支援できないと言われたという。ただ、「旧統一教会の問題は、統一地方選にそれほど大きな影響は与えなかったんじゃないかな」とも主張した。

無投票での当選もあった。昨年9月まで教団信者だったという自民党の藤曲敬宏・静岡県議(56)は、定数1の熱海市選挙区で他に候補者がおらず、無投票で3選を果たした。昨夏の朝日新聞のアンケートには回答しなかったが、信者だったことは報道されていた。

告示1週間前に自身のホームページを更新し、「党本部の方針に従い、今後教会および関連団体と一切の関係を持たない」と記していた。

教団広報局は取材に、「当法人は平素より、特定の候補者や政党と関わりを持つことはございません」と答えた。